

第39回 無量の会

# 公開講演会

ふじかわこうのすけ

◆講師

藤川幸之助 氏

◆講題

## 「支える側が支えられるとき」

～認知症の母がおしえてくれたこと～

母は60歳の時アルツハイマー型認知症と診断され84歳で亡くなりました。認知症を患ってからの24年間の母の心の不安、忘却への恐怖、病気による混乱とそれを支えた家族の心の葛藤を通して、認知症という病気や介護について、詩の朗読を交えてお話しします。母の介護の日々を振り返ると、母を支えていたと思ってきた私が、実は母に精神的に支えられ、育てられていたと深く感じるのです。



「読売新聞社提供」

扉（とびら）

認知症の母を  
老人ホームに入れた。

藤川幸之助

認知症の老人たちの中で  
静かに座って私を見つめる母が  
涙の向こう側にぼんやり見えた。  
私が帰ろうとすると  
何も分かるはずもない母が  
私の手をぎゅっとなつかんだ。  
そしてどこまでもどこまでも  
私の後をついてきた。

\*

私がホームから帰ってしまおうと  
私が出ていった重い扉の前に  
母はぴったりとくっついて  
ずっとその扉を見つめているんだと  
聞いた。

それでも  
母を老人ホームに入れたまま  
私は帰る。  
母にとっては重い重い扉を  
私はひょいと開けて  
また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』  
（中央法規）

2020年

4月26日(日) 16:00 - 18:00

(15:30 受付開始)

【真宗大谷派 旭川別院大谷ホール1階】

聴講料：500円

旭川市宮下通2丁目  
(0166-22-2409)

〈どなたでも参加できます〉

### 講師プロフィール

- 詩人・児童文学作家。日本児童文学者協会会員。
- 1962年生。長崎大学教育学部大学院修士課程修了。
- 小学校の教師を経て、現在は認知症の母親の介護の経験をもとに、命や認知症を題材にした作品を作り続けている。また、認知症への理解を深めるため全国各地で講演活動を行っている（講演回数457回<2019年3月現在>）
- 著作に、『徘徊と笑うなかれ』（中央法規）、ポストカード詩集『命が命を生かす瞬間』（東本願寺出版）、詩文集『まなざしかいご 認知症の母と言葉をこえて向かいあうとき』（中央法規）等多数。

主催 無量の会 後援 真宗大谷派北海道教区・真宗大谷派北海道教区第16組

「無量の会」は旭川近郊の真宗大谷派若手僧侶の学習会です